

☆津市立一志中学校区の取組



◆事業概要

1 中学校区の現状と課題

一志中学校区では、様々な要因により、学習に集中できない児童・生徒がいたり、児童・生徒のコミュニケーション力が十分に高められなかったりする等の課題が見られました。

そこで、地域から学んだことを子どもたち自身で地域に発信し、自分たちの学びを表現する力を育てるとともに、多くの人たちから認められる実感を得ることで、子どもたちの自尊感情を育みたいと考え、学校・園・地域の関係団体が参画する一志中学校区子ども支援ネットワークを構築していこうと考えました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 子どもたちと地域との係わり（出会い学習、交流学习）

①和太鼓演奏の取組

一志東小学校の6年生では、市内の和太鼓演奏家である服部博之さんの支援のもと、年間を通して、和太鼓演奏の取組を行いました。運動会、津祭り、一志人権フェスティバル、卒業式等、いくつもの発表の機会に向けて、子どもたちは練習に取り組みました。

津祭りにおいて子どもたちは、服部さんとのセッションという形で舞台に立ち、多くの観客の前で堂々と演奏しました。子どもたちにとって、仲間とともに一つのことをやりとげる充実感を感じながら、たくさんの保護者や地域の方から応援や賞賛の言葉をもらうことができ、自尊感情を高める機会となりました。

②コスモス作業所での出会い学習

一志西小学校では、地域在住の助産師を講師に迎えての命の学習や、学校の近くにある福祉施設コスモス作業所との交流学习等を行いました。子どもたちは、コスモス作業所で働く人たちと一緒にタオルをたたむ作業をしたり、散歩に同行したりしながら交流をしました。

12月にはコスモス作業所が中心となり、毎年地域の方々で開催している「すてきな仲間たちコンサート」に、小学生や中学校の吹奏楽部員が参加しました。



コンサートでの演奏

③社会福祉協議会による福祉体験学習

社会福祉協議会一志支部が中心となって、小中学校児童生徒対象に福祉体験学習を行いました。一志中学校では、3年生を対象に、高齢者体験学習を行い、超高齢社会と人権について考える機会を持ちました。生徒は、高齢になると今まで当たり前できていたことができにくくなっていくという状況を体験しながら、高齢者を取り巻く人権問題について、自分自身の問題として考えることができました。

④教育集会所による点字体験学習

川合教育集会所において、地域で点字翻訳のボランティア活動を行っている「ジャンボの会」会員が講師となり、校区内の2小学校の4年生を対象に点字体験教室を行いました。子どもたちは、視覚障がい者をはじめ障がいのある人たちの生活について知るとともに、点字の役割等について、実際に点字を打つ作業を通して学ぶことができました。



点字の体験

(2) 一志人権フェスティバル

一志人権フェスティバルでは、今年度より学校や園での人権に係わった取組を発表する機会を設けました。ネットワーク事務局は、フェスティバル当日に向けて、子どもたちの活躍の場を作ったり、活動を広く地域に知ってもらえるようにしたりするために話し合いを重ねました。当日は、開会行事での太鼓演奏や学校の取組のまとめを展示したりすること等、地域へ向けて取組を発信しました。

◆実践を振り返って

地域の人材を活用した出会い学習や体験学習の工夫を進めたことにより、学校と地域のつながりを深めることができました。そして、地域の様々な方との出会いから、その生き方に学び、温かい支援を受けることで、子どもたちの自尊感情を高めることもできました。今後、さらにこのネットワークに参画する団体をつなぎ、組織体制の拡大・整備を進め、園・学校と家庭・地域が連携・協働できるよう取り組んでいきたいと考えます。